

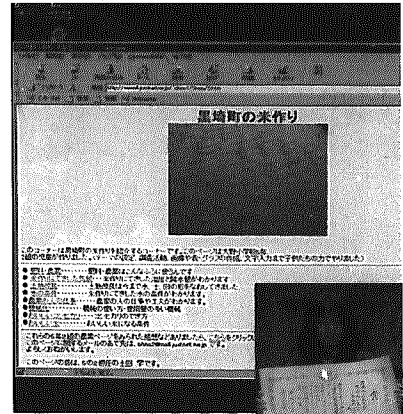


やった当選、1等賞

1月26日(月)、大野町郵便局で、お年玉付年賀はがきの1等当選者に、目録の贈呈が行われました。幸運を手にしたのは、前田雄吾さん(善久東)です。55枚のうちの1枚で、高校時代の友人からのものだそうです。「以前に食事券が当たったことがあるという程度のくじ運で、信じられない」と話す前田さんに、同郵便局長から目録が手渡されると、緊張していた顔が満面の笑みになりました。賞品は4種類の中から前から欲しいと思っていたワイドテレビを選びました。同郵便局管内では、3年ぶりの1等当選で、今年取り扱った年賀状88万枚のうちの1枚でした。



1月26日(月)、大野小学校5年2組の児童が「はくの街、わたしの村」My Town MAPコンクール(文部省など後援)で農林水産大臣賞を受賞し、町長に報告のため訪れました。これは、同クラス39人の児童が、同校区内の米作りを小平方ライスセンターの協力を得て、自ら「肥料・農薬」、「米作りに適した気候」、「土地改良」などのテーマに分けて取材し、デジタルカメラの写真も入れ、インターネットのホームページとしてまとめあげたものが表彰されたものです。全国465作品中の受賞に町長は、訪れた代表の山田朋恵さんにお祝いの言葉をかけていました。なお、ホームページのアドレスは、<http://www4.justnet.ne.jp/~ohno1/>です。



大野小5年2組が農林水産大臣賞

ステキなりサイクル教室が北部地区公民館などで行われました。これは、ごみ問題を身近に考えてもらおうと1月29日から4回シリーズで始めた講座です。初回と3回目は、リサイクルの体験として牛乳パックの再利用を新潟市内のサークル「井戸端会議」の皆さんから教わりました。2回目は、エコプラザ(新潟市のリサイクル施設)の職員を講師に自分たちの生活と環境問題は密接に繋がっていることや、リサイクルの必要性をみんな考えてきました。最終回の今月5日には、エコプラザを訪れ新潟市のこみとりサイクルの現状を見学します。

ごみは身近な問題です



公民館ってなあに?

1月29日(木)、山田小学校の児童が北部地区公民館を見学しました。これは、6年生68人が「私たちの暮らしと政治」という社会科の授業で訪れたものです。担当者から公民館の説明を受けた後、子供たちは、「建設費はいくらかかったの」、「いつできたの」、「なぜ出来たの」などの熱心な質問をしていました。各々館内を見学したり、講堂で活動しているダンスサークルと一緒に練習をしたりして公民館活動を学びました。

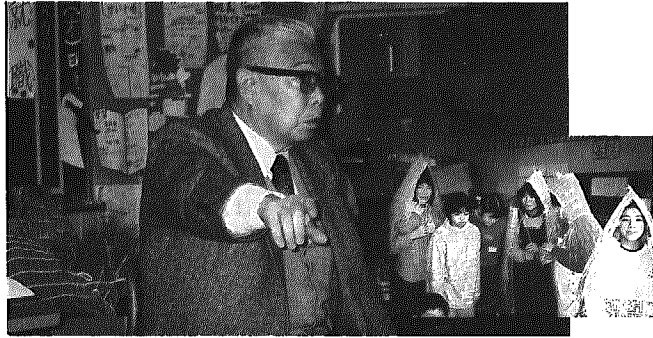
倉庫の床に敷いた板の上に、十二俵の米俵を同じ向きに並べ、その上の段は九十度横に十文字の形に並べ、それを繰り返して、一段、一段高く積み上げるのだが、曾山さんが支那袋(南京袋とも言った)を頭から肩にかけてかぶり、米俵を肩に載せるとき、手の不自由な若狭さんが片手で米俵の端を持ち上げて、曾山さんが肩に米俵を乗せるのを手伝ったという。はしご段を使い、米俵の山が十三、十四段の高さになるまで六十キロもある米俵を担いではしご段を登ることは並大抵のことではなかった。それを今日では、フォークリフトなどという機械で楽々と、どんな高さでも積み上げることができるようになった。もう一つ大変だったのは、木場駅から発送する米俵の積み方だった。当時の貨車は十屯車と十五屯車の二種類ほどあって、十屯車は約百五十俵、十五屯車は二百数十俵の米俵を運んだ。秋の一番多忙なときには、木場駅から午前と午後二回づつ、日に合計四、五車もの米俵の積み方があったというから、毎日のように千俵以上の米俵が駅に向けて送られていたのである。

このように、木場駅から日に何両もの貨物積みのある場合、とても曾山さん一人では対応出来ず、七穂や味方、白根等の営業所に応援を頼み、また、七穂や白根駅等で何両もの貨車積みがある時は、管内(九駅)の営業所から電車に乗って応援に行き互いに助け合って作業をした。これは、黒埼に昔から伝わるええのような形で行われた。

注 ええとは、親戚や仲の良い人たちが、家事の忙しいときや、農作業の大変な時、互いに助け合ったこと。

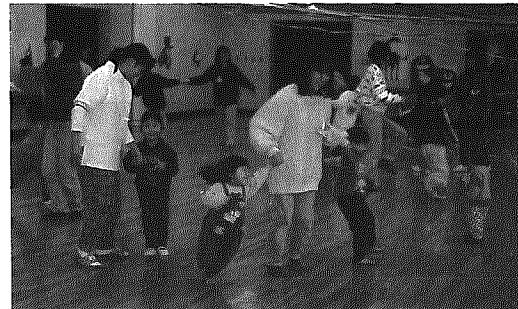
出荷の多い日になると、電鉄運管管内の各駅から十数両もの米俵を満載した貨車を電賃(電鉄の貨車を牽引する電賃)で、引いて黒埼から国鉄線に接続した。越後大野駅の貨車集配業務を一手に引き受けたのは、日本通運加盟の風間運送店だった。

(続く)



社会科見学から郷土史学習

1月22日(木)、黒埼町の今昔の著者・宮田栄門さんが、木場小学校で町の郷土史の授業を行いました。これは、同小学校6年生の児童が社会科の見学で、北部地区公民館を訪れたときに、同館長でもある宮田さんの歴史を交えた説明に興味をもち、「もっとお話を聞きたい」と実現したものです。当日は、木場地区に伝わるこわい昔話や、昔の民具などに子供たちは一喜一憂していました。



ゲームをしながら運動だ

1月24日(土)、親子のつどいが北部地区公民館で行われました。当日は、悪天候にもかかわらず親子で30人程集まりました。アニメ映画を見た後、名札を兼ねたくまやうさぎの動物フツベンの動物で2班に分かれ、じゃんけんゲームや親子体操等で、外の寒さを吹き飛ばそうと思いきり体を動かしました。

1月23日(金)、黒埼太鼓振興会発会式が役場で行われました。町公民館長の山際さんが発起人代表となり催された発会式では、経過報告の後、会則の審議や役員を選出、今後の事業計画を決めました。太鼓の指導は、黒埼高等学校で太鼓を指導している服部正史さんが当たられ、町制施行25周年記念式典での披露、黒埼まつりへの出演を目指し、2月から練習に励んでいます。

なお、同振興会では会員を募集しています。興味のある方は同振興会事務局長の神原さん(☎377-3140)、または、教育委員会社会教育課(☎377-3101内線221)へご連絡を。

黒埼太鼓スタート



まちの二コース

町の様々な出来事をお伝えします

電鉄の今昔 第九回

執筆 宮田 栄門

電鉄に関わるエピソード

(先月号からの続き)
秋の収穫期に入ると、木場の農協倉庫前は木場や黒鳥、板井、金巻等からぞくぞくと運び込まれる米俵を積んだ馬車や牛車等、こった返し、農協前に大きな米俵の山がいくつもできた。当時まだ、自動車が多かったため、黒埼の村内には、十数軒ほど比較的生活の豊かな人たちが「馬車ひき」、または、「馬車屋」といって、馬を使って車で荷物を運ぶことを生業としていた人たちがいた。供出米の多くは、この人たちが運んだが、中には農作業用の牛を使って車で運ぶ人もいた。また、黒埼の水郷とも言われた木場には、大きな堀が村中を縦横に通っていたので、木場の人たちの中には、舟を使って自分で農協まで供出米を運ぶ人もいた。農協のカレンダーに戦後間もないころのものと思われる、農協前に高く野積みされた米俵の山の写真を見ることがある。今のようには、ペルトコンベアーや、リフトなど新式機械のなかった当時、一俵六十キロもある重い米俵をどうやってあんなに高く積んだのだろうかと思ってしまう。

農協で検査を受けて直ぐ発送されるものと、農協の倉庫でかなり長く貯蔵される米俵があった。その倉庫の積み方も、正に骨とのつりあいだった。

積み上げの方法は、「はえ積み」という名で、